



2020
No.346

1
月号

News

全国整備工場の皆様へ
NGP 組合員 200 拠点がお届けする
お役立ち情報

2020年1月19日発行
■発行責任者/佐藤幸雄 ■編集・制作/(株)プロトリアス
■発行/(株)NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200

定価/1部30円

令和2年 理事長年頭のご挨拶

“お客様第一”の理念のもと リサイクル部品の供給体制を強化し カーアフターマーケットの活性化に 貢献して参ります!



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 佐藤幸雄

新年明けましておめでとうございます。
年頭に当たり新年のお慶びを申し上げます。
また旧年中は、弊組合に多大なるご支援を
賜り、改めて感謝申し上げます。

昨年は、九州北部を襲った8月豪雨、関
東地方を中心に大きな被害をもたらした台
風15号及び台風19号など、大規模な自然
災害が多く発生いたしました。被害に遭
われた方々に謹んでお見舞い申し上げると
ともに、一日も早い復旧・復興を心よりお
祈り申し上げます。

NGPは昨年の災害発生を受けて、被災
地域に対策本部を設立し、車両引き取りな
どの復興支援に取り組みました。今後も万
が一災害が発生してしまったときに備え、
いち早く支援活動を展開できる体制を強化
して参ります。

自動車産業においては現在、「CASE」
に代表される様々な技術やサービスが生ま
れており、一つの企業ですべての開発をま
かなうことが難しい状況となっています。
国境を越えて企業同士が網の目のように提
携関係を結び、しのぎを削っています。そ
のような中、次世代の自動車業界において
はハードを生産するカーメーカーではなく、
自動運転やコネクテッド技術などのシステ
ムを提供するIT企業が覇権を握る可能性す
らあると言われています。

このように急速に変化する時代だからこ
そ、私たちが忘れてはいけないのは「お客

様第一」というNGPの理念だと考えてい
ます。お客様に必要とされ、頼りにしてい
ただける存在であり続けるため、NGPグ
ループの総力を結集し、スケールメリット
を活かした戦略を展開して参ります。

私たちの事業の柱である「国内部品販売・
海外部品販売・素材販売」の3つの事業基
盤をさらに強固なものとするためには、車
両の確保が必要不可欠です。そのための一
つの施策として、一般カーオーナーから車
を買い取る「廃車王」サービスを、引き続
き強化していきます。様々なメディアへの
露出、PR施策を検討・実施し、「廃車とい
えば廃車王」というブランド認知の確立を
目指します。

また近年、自動車リサイクル業界におい
ては、人材不足と部品運送料の高騰が大き
な課題となっています。さらに鉄スクラッ
プの価格下落やASR（自動車シュレッダ
ーダスト）の処理問題などによる利益率の
低下も、大きな問題として認識されていま
す。

自動車リサイクル事業の最大の目的は、
使用済み自動車の適正処理と再資源化です。
そのリサイクルの流れにおいては、ユーザ
ーがリサイクル部品を活用することができ
る供給環境の構築が非常に重要となります。

NGPでは全国の組合員が部品在庫を共
有できるネットワークを構築し、その豊富
な商品力でお客様の要望に応えられる供給

体制を確立してきました。しかし最近の運
送料の高騰によって、離れた地域への部品
発送が難しい環境になりつつあります。

物流を取り巻く環境の変化を受けて、地
域で生産したリサイクル部品をその地域の
ユーザーへ供給する「地産地消」を進める
必要があり、今後は地域地域でユーザーの
ニーズに応えられる供給体制を、構築して
いく必要があると考えています。

人材不足への対応としては、働く先とし
て選んでもらえる業界となるために、まず
は業界の認知度を向上させることが重要だ
と認識しています。廃車王サービスをはじ
めとした各種事業のPR、SDGsに向けた
取り組みの紹介、エコプロへの出展などを
通じて、幅広い層へ私たちの仕事の社会的
な責任と役割を伝え、業界に対する正しい
理解を促していきます。リサイクル業界及
びリサイクル部品に対するカーオーナーの
理解が深まれば、整備・修理工場において
も顧客に対してリサイクル部品の使用を提
案しやすくなると考えています。

カーアフターマーケット全体の活性化に
向けて、皆さまとともに各種取り組みを進
めていきたいと考えております。今後とも
ご支援ご指導を賜りますよう、心より願
い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を心より
お祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせてい
たします。

持続可能な社会の実現に向けた活動や環境負荷低減につながる技術開発の動向が示される

日本最大級の環境に関する総合展示会「エコプロ2019」が12月5～7日の3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催されました。

近年、国際連合が定めた17の目標「SDGs（持続可能な開発目標）」を経営戦略上の重要事項と位置づける企業が増加しています。そのような社会動向を受けて、21回目となる同展のテーマは「持続可能

な社会の実現に向けて」に設定されました。

幅広い業種の企業や自治体、官公庁などが出展した会場内では、環境負荷低減活動をはじめとしたSDGsに関する各種取り組みが紹介されました。自動車関連では、軽量化やCO₂排出抑制に貢献する各種素材や技術、バイオプラスチックの活用事例、自動車リサイクルの取り組みなどが披露されています。

また今回は「SDGs Week」と称して、「社会インフラテック2019」（開催日12月4～6日）、「気候変動・災害対策 Biz 2019」（同）が同時開催されました。出展者数はそれぞれ、エコプロ：515社・団体、社会インフラテック：110社・団体、気候変動・災害対策 Biz：50社・団体、来場者数はエコプロ単体で147,653人、3展合計では155,818人に上っています。



トヨタ自動車

CO₂排出量削減や循環型社会・システム構築に向けたリサイクル技術の開発などを目標に掲げた「トヨタ環境チャレンジ2050」を紹介。再生可能エネルギーによる工場運営などの取り組みをPRした



環境省

インバーター、コンバーターなどにGaN（窒化ガリウム）を用いることでエネルギー損失を抑えるコンセプトカー（写真）や、木材などを原料としたCNF（セルロースナノファイバー）を外板などに用いたコンセプトカーを展示



自動車リサイクル促進センター

使用済み自動車から回収された鉄、銅、アルミを展示し、リサイクルの流れやパーツごとのリサイクル状況を紹介。再生プラスチックを使った工作コーナーも用意した



JXTGエネルギー

FCVに水素を供給する水素ディスペンサーを展示するとともに、全国41カ所にあるエネオスブランドの水素ステーションの紹介や、既存ガソリンスタンドを活用した水素供給サプライチェーンなど、水素社会に向けた取り組みをPRした



積水化学工業

家庭などから出るごみをガス化し、精製、反応させることで、プラスチックなどの石油化学製品の原料となるエタノールを生産する技術について、品質や生産効率などに関する実証結果とともに紹介した



大王製紙

ボンネット、後部スポイラー、リアドアに同社製CNFを採用し、2019年に米国で開催されたレース「バイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム」に参加した電気自動車を展示。合計12.6kgの軽量化など、CNF使用による効果を解説した



帝人グループ

ボディとホイールに炭素繊維、ウィンドウに樹脂素材を用いた、工学院大学のソーラーカーを展示。各素材が軽量化に果たす役割などを紹介した



日本郵政グループ

配送用として電気自動車を2020年度末までに1,200台導入する計画や、ラストワンマイル配送への活用を想定した、ロボットによる無人配送の実証実験の内容などを紹介した



三菱ケミカルホールディングス

植物を原料とするプラスチック「DURABIO」を採用したマツダ車のグリルを展示。発色性に優れた同素材は塗装が不要なため、VOC削減などの効果がある点についてもPRした

自動車リサイクル事業を通じたSDGsの取り組みを紹介

NGP協同組合は、エコプロに14年連続で出展しています。

NGPが推進するSDGsの取り組みについての紹介をメインコンセプトとしてデザインされたブースには、①使用済み自動車の引き取り、②適正処理・部品の分別、③修理用部品として再利用、④資源分別、⑤再資源化という自動車リサイクルの流れを紹介する大きなパネルを設置し、自動車リサイクル事業がいかに環境負荷低減につながるかを説明しました。そしてそのリサイクルの流れの中で、使用済み自動車買い取りサービス「廃車王」などのNGPが提供する各種サービスについても紹介しています。さらにリサイクル部品の実物展示ではその品質の高さとともに、CO₂排出量削減効果及び新品部品との価格比較を提示することで、リサイクル部品の活用が地球環境にも家計にも優しい点をPRしています。

ブースの一角には、NGPが協賛している瀬戸内オリーブ基金の活動を紹介するコーナーを設けました。国内最大級の産業廃棄物不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに設立された同基金は、豊島をはじめとした瀬戸内の環境再生活動に取り組んでいます。ニュースなどで豊島事件が発覚した当時の様子を知る大人たちからは、その後の島の状況についての質問が寄せられました。そして事件発覚当時はまだ生まれていなかった子どもたちには、不法投棄が自然環境にいかん深刻な被害をもたらし、その再生には非常に長い年月がかかるという、豊島事件の教訓を伝えています。

またブース内には、NGPや瀬戸内オリーブ基金に関するクイズが用意されており、正解者にはNGPリサイクルノートなどをプレゼントしました。クイズのヒントは展示パネルに隠されており、クイズに挑戦した子どもたちは、答えを探す過程で自動車リサイクルシステム及びNGP事業の概要、豊島事件の経緯と瀬戸内オリーブ基金の取り組みについて学ぶことができました。

NGP協同組合・総務広報委員会の杉之間大和委員長は、「エコプロには、学校教育の一環として多くの子どもたちが来場します。NGPのブースにも非常に多くの小中学生が訪れ、自動車リサイクルに関する様々な質問が寄せられました。自動車の適

正処理、部品の再利用、素材のリサイクルなどを主とする私たちの事業は、SDGsの考え方に合致しています。今後も各種活動を通じて、NGPの取り組みやリサイクル

NGP協同組合・
総務広報委員会の
杉之間大和委員長



パーツの品質・環境性を幅広い層にPRし、リサイクル部品の利活用を訴求していきます」と、3日間の手応えと今後の方針についてコメントしています。



幅広い年齢層の来場者が訪れたNGPブース



リサイクルの流れを解説する大型の展示パネルを設置



リサイクル部品の品質、CO₂排出削減効果、新品部品との価格差をPR



2019年に発生した8月豪雨、台風15号、台風19号の被災地を支援するための募金活動を展開。募金にご協力いただいた方には、エンブレムをプレゼント



瀬戸内オリーブ基金のコーナーで、豊島事件の経緯と産業廃棄物を適正に処理することの重要性を学ぶ子どもたち

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和元年11月:

2,663t



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和元年11月

1.8t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目(左右ある部品を含む)と115品目を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

アートパーツ長野、長野県のSDGs登録企業に 業界の垣根を越えて地球環境保全の輪を広げたい

11月13日、NGP組合員の(株)アートパーツ長野（長野県松本市）は長野県庁にて行われた「長野県SDGs推進企業登録制度」第2回登録証交付式において、SDGs登録企業となりました。

NGPIは2019年7月から「自動車リサイクル事業を通じて未来のために今できること」をテーマに、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の取り組みを推進する活動をスタートさせており、同社は同県内のNGP組合員初のSDGs登録企業となります。鈴木修一社長は「当社は以前からカーボンオフセット活動など環境保全に向けた取り組みを率先して行っており、NGP本部から同制度の紹介を受けてすぐに、登録へ向けて動き出しました」と登録企業に至った経緯を語ります。

登録にあたっては各種要件の提出が求められます。要件1にある「SDGs達成に向けた経営方針等」において、『弊社は、経営理念である「自動車リサイクル、リユース部品の流通を通して、地球環境保全に貢献し、明るく！楽しく！元氣よく！をモットーに誇りを持って社会に貢献する」の実現に向けて、SDGsの達成に貢献してまいります。』を提出したほか、「環境」、「社会」、「経済」の3側面のすべてについて重点的な取り組みを発表しています（表1）。

要件2では、「人権・労働」、「環境」、「公正な事業慣行」、「社会貢献・地域貢献」、「組織体制」の5つのカテゴリーに分け

られた42のチェック項目に対して、具体的な取り組みを挙げていきます。

鈴木社長とともに登録に向けて取り組んだ戸田洋子統括マネージャーは、「今回の登録に当たり、県が開催するセミナーへの出席のほか、NGP本部や県との密なやり取りは大変勉強になり、環境への意識がますます高まりました」と話しています。

SDGsに向けた社会の動きについて、鈴木社長は「SDGsへの活動を積極的に行っている県が、まだまだ少ない状況です。企業だけではなく、各県や国もしっかりと環境問題に向き合うべきだと思います」との見解を示しています。また、今後の方向性については「今回の登録により、地球環境に関わる具体的な動きを明確化することができました。今後はこれらを当社の柱とするとともに、業界の垣根を越えて地球環境保全に努め、この輪を広げていきたいです」と意気込みを語っています。



長野県SDGs認定企業交付式にて認定証を受け取る鈴木修一社長（右）と戸田洋子統括マネージャー



アートパーツ長野外観

表1 アートパーツ長野が登録時に申請したSDGs達成に向けた重点的な取り組みの内容

3側面 (主な分野に●)	SDGs達成に向けた 重点的な取組	2030年に向けた指標	重点的な取組及び 指標の進捗状況
環境 社会 経済	多様な働き方、多様な人材を許容する職場環境を整える。	高齢者雇用比率の20%増加。	シフト制、時短勤務を導入し、多様な働き方に対応中。
環境 社会 経済	リサイクル、リユース自動車部品を個人ユーザーに対して幅広く周知して行く。	現在1.3%の構成比を10%まで引き上げる。	放置車両削減の観点から“廃車王”に参加し、車両引上げ・廃車手続きを無料で実施中。
環境 社会 経済	災害時に於ける車両引上げに素早く対応可能な体制を構築する。	平時からヤードの確保、機動力ネットワーク構築に努める。	

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
関西	株式会社金子商会	会社代表	代表取締役 金子英治	2019年11月30日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生する CO₂ 全てをカーボンオフセット（相殺）した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。